

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：建築学科

資格：講師

氏名：猪股 圭佑

研究分野	研究内容のキーワード
ビザンティン聖堂におけるキリスト教絵画によって構成された建築空間に関する研究	ビザンティン聖堂、キリスト教絵画、墓
学位	最終学歴
修士（工学）、学士（工学）	京都大学大学院 工学研究科 生活空間学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 世界建築史、近代建築史における、教員の説明を聞きながら記述する毎回の小テストとそのフィードバック	2014年4月～現在	授業ではできるだけ多くの写真や図面などをパワーポイントで示しながら、ビジュアルな説明を行っている。授業のレジュメを配布するとともに、教員の説明を聞きながら問題形式で学習内容を各自でメモし、さらに授業内容に関連した論述を求める小テストを毎回実施している。その小テストは、コピーを取った上で、次の授業時に学生に返却し、学生の記述について講評してフィードバックを図り、学生の知識の定着及び論理的思考能力の向上を試みている。
2. 初期演習における作品のプレゼンテーション	2014年4月～2015年3月	学生が選んだ建築作品や、各自が授業で作成した作品についてパワーポイントを作成してプレゼンテーションを行い、それに対して他の学生が質問と講評を行った。これにより、大学1年目における建築に対する意識向上や、学生同士の議論の活発化、論理的思考能力の育成を図った。
3. 建築一般構造Ⅱにおける建築設計の実績を例に用いた指導	2013年04月～2013年09月	躯体と仕上げ材、異なる仕上げ材、建築と設備などの接合について指導する際に、自分が設計した事例の写真や図面を例に挙げながら説明を行った。小テストでは、説明を受けた内容に関する詳細図を学生自らが描くことで、内容の理解を深めるとともに実際の設計に活かせるようにした。
4. 建築設計実務における実際のプロジェクトへの参画	2012年04月～現在	武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ(一級建築士事務所)を拠点として学内外の実際のプロジェクトに参画し、新築・改築・保存・修復などの実務訓練を行っている。2012年度から武庫川女子大学の玄関口でもある「阪神鳴尾駅」を題材として、外観デザインや内部平面計画、照明計画などの検討及び提案を行っており、現在も継続中。2013年度後期は武庫川女子大学の「学校教育館」「看護科学館」を、2014年度前期前半は武庫川女子大学の「武道館」を題材とした。敷地周辺の調査や参考事例の見学を行い、詳細図やCGパース、模型を作成して、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討した。2014年度前期後半は「バーミヤン博物館」を題材として、海外のプロジェクトに取り組んだ。2016年度後期から尼崎の朝日エティック大阪工場敷地内の庭園の設計に取り組んでおり、現在も継続中。2017年度前期にエネマネハウス2017に応募、採択され、現在はモデルハウスの建築に向けて作業を進めている。様々なプロジェクトにおいて、学外の多くの専門家との打ち合わせにも積極的に参加し、作成した図面や模型を用いて学生自らがプレゼンテーションを行っている。
5. 図学・CAD基礎演習及び図学・情報基礎演習における建築空間の構成要素を例に用いた指導	2010年04月～2014年08月	投影図や透視図の作図法を説明する際に、教科書通りに図形だけで説明するのではなく、床・壁・天井等の、建築空間の構成要素を例に用いて説明し、図学と建築設計が関連付けられるように工夫した。

2 作成した教科書、教材		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		

4 その他		
1. オープンキャンパスにおける公開授業	2017年07月～現在	2017年度オープンキャンパスにおいて「建築設計演習Ⅲ」の中間講評会、「建築設計実務Ⅰ」のモザイク実習を、公開授業として多数の高校生及びその保護者を前に行った。
2. 学生の学会発表支援	2017年04月～ 2017年09月	2017年の建築学会全国大会において学生の発表を支援し、共著として9本の論文発表を行った。
3. 附属高校2年生対象出張講義	2015年02月～現在	2015年度及び2016年度の附属高校2年生対象出張講義にて建築学専攻の授業「建築設計実務」で継続中の「阪神鳴尾駅プロジェクト」の講義を行った。
4. 担任業務における学生指導	2014年04月～現在	2014年度から担任を務めており、1年生より積極的な進路指導を行った現4年生43名中31名が2018年度本学大学院建築学専攻に進学する予定。同学年から2名が英語チャレン

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
		ジコースを受講している。同学年の学生はiaSU2016国際会議でのMWU Student Poster Sessionにも積極的に取り組み、建築学科入学式や国際会議でのお茶会も主催している。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 一級建築士	2006年04月	
2 特許等		

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. エネマネハウス2017	2017年04月～現在	大学院修士課程「建築設計実務Ⅰ・Ⅱ」では、学生が武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）を拠点として学外のプロジェクトに参画し、実務訓練を行っている。2017年度前期、大学対抗建築コンペ「エネマネハウス2017：学生が考える実現可能な一次エネルギー消費量ゼロの家」に応募し、実際にモデルハウスを建築する事業者として採択された。京都大学、近畿大学、首都大学東京、早稲田大学＋芝浦工業大学の4大学とともに、グランフロント大阪に隣接するうめきたサザンパークに省エネ住宅を建築し、一般に公開する。本プロジェクトは株式会社竹中工務店をはじめ朝日エティック株式会社など、約20社の企業から技術協力や建材、設備機器の提供を得ながら産学が連携して実施している。
2. 阪神鳴尾駅	2012年04月～現在	阪神鳴尾駅や、看護科学館、学校教育館、武道館を題材とした建築設計実務の授業を通して、大学を含めた地域全体のあり方について考え、阪神電気鉄道株式会社や施工会社、専門業者などに設計提案を行っている。阪神鳴尾駅は武庫川女子大学の玄関口であり、そこから学校教育センター、看護学部新校舎、総合心理科学館、そして中央キャンパスへと、研究や教育、文化を象徴する風景をつくりだし、地域に配慮したまちづくりに繋げることを意図し、外観、内観デザインや照明計画などの検討及び提案を行っている。武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）を拠点として、詳細図やCGパース、模型を作成して、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討した。学外の企業との打ち合わせにも積極的に参加し、作成した図面や模型を用いてプレゼンテーションを行っている。

4 その他		
1. 高校へのお出張講義	2016年06月15日	2016年度の大阪府立春日丘高校2年生対象分野別模擬授業にて建築学専攻の授業「建築設計実務」で継続中の「阪神鳴尾駅プロジェクト」の講義を行った。
2. 大学運営に関する事項	2012年04月～現在	鳴尾駅高架下利用研究委員会、トルコ文化研究センター運営委員会、武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ運営委員会の委員を務めている。オープンキャンパスでは主に保護者への学科説明、見学引率などを担当。トルコ文化研究センター紀要論文集の編集や、東京講演会「わが国の近代建築の保存と再生」の記録冊子の編集を行った。2012年度金沢及び2014年度高松会場の地域別教育懇談会・鳴松会懇親会に出席した。
3. 照明学会照明普及賞（優秀施設賞）	2010年05月21日	「東京建物仙台ビル」にて平成21年照明学会照明普及賞（優秀施設賞）を受賞

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1. コーラ修道院聖堂におけるパレクレシオンの空間構成－墓室と絵画との関係に着目して－（査読付）	共	2017年08月	日本建築学会計画系論文集 第82巻 第738号, pp. 2151-2161	猪股圭佑 全文執筆 コーラ修道院聖堂パレクレシオンにおける墓室と絵画との関係に着目して、キリスト教絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。断面展開図や天井見上図、内部合成写真、アクトノメトリック図を作成し、ドームにおける「聖母マリアによる執り成し」とその成就としてのアプシスにおける「キリストによる救済」を希求する、献堂者テオドロス・メトキティスの祈りを表現する神聖な空間が建築と絵画の一体的な計画によって形成されたことを考察

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
2. SPACIAL COMPOSITION OF CHRISTIAN PAINTINGS IN THE CAVE CHURCHES OF IHLARA VALLEY, CAPPADOCIA (査読付)	共	2017年03月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 4th International Conference 2016, Selected Papers, pp. 63~70	した。 猪股圭佑, 木島未実子 全文執筆 カッパドキア、ウフララ渓谷の岩窟聖堂8点において壁画の写真を合成した断面展開図を作成し、室の配置、窓や墓の位置、壁画の主題及び配置から岩窟聖堂の空間構成について分析・考察を行った。内部には全ての聖堂で“死”や“救済”を意味する壁画が、特に聖堂の西側や墓室に集中して描かれていた。ウフララ渓谷の岩窟聖堂は、聖堂と墓室を中心とし、壁画の主題及び配置によって“死”を、そして祈りを捧げる信者の魂の“救済”を意味する空間を構成している。
3. Design of Hanshin Electric Railway Naruo Station with Plank Sheets (査読付)	共	2017年01月	Intercultural Understanding Vol. 6, pp. 23~30	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 川口衛, 田川浩之, 杉浦徳利, 森本順子, 山口彩 1. Introduction, 2. Design Concept of Station with Plank Sheets, 4. Summaryを担当 阪神電車鳴尾駅における、プランクシートをシェルの構造体として用いるために行った構造実験とそれにより最低限の部材によって構成された駅舎の設計について報告した。下地材が不要なプランクシートによって壁と天井が一体となり、階段やエスカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見える駅舎空間を実現した。
4. コーラ修道院聖堂のキリスト教絵画による内ナルテクスを中心とした空間構成(査読付)	共	2015年10月	日本建築学会計画系論文集 第80巻 第716号, pp. 2403-2411	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院におけるキリスト教絵画の配置によって形成されている建築的空間の意味を明らかにすることを目的とし、外ナルテクスの南出入口から内ナルテクスへ至る連続する空間及びそこに描かれた複数の絵画を対象として、断面展開図や内部合成写真を作成し、絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。内ナルテクスを中心として、「神としてのキリスト」そして聖母マリアが象徴する「人としてのキリスト」を可視化し、「キリストの両性」を表現する建築的空間が絵画の配置によって形成されたことを考察した。
5. Significance of the Architectural Space and Mountains in the Christian Art of the Inner Narthex of the Chora Church (査読付)	共	2014年08月	Intercultural Understanding Vol. 4, pp. 27~35	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院の内ナルテクスのドームにおける壁画の主題及び配置を分析することによって、壁画に表現された山と建築空間の意味を明らかにすることを目的とし、モザイクで装飾された建築空間の断面展開図や合成写真を用いて、内ナルテクスの北ドーム及び南ドームで山が描かれている建築空間の分析及び考察を行った。コーラ修道院の内ナルテクスにおいて、山は神の世界と地上の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていた。そして建築空間に壁画を描くことによって低い壁面を地上の世界、ドームを神の世界として構成し、ペンデンティブやルネットによって二つの世界を区分していたと考えられる。
6. Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Monastery of Hosios Loukas (査読付)	共	2012年03月	Intercultural Understanding Vol. 2, pp. 25~28	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにして、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の機能と比較考察した。その結果オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画においても、コーラ修道院の場合と同様に、山は世界を区分する枠として描かれていることが考察された。
7. コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型—人物との関係に着目して— (査読付)	共	2011年12月	日本建築学会計画系論文集 第76巻 第670号, pp. 2477~2485	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山を対象として、人物との関係に着目してその類型を抽出し、それら類型の意味を明らかにすることを目的として分析及び考察を行った。山は、「人物の横にある山」では街の外の危険な世界を象徴し、「人物を縁取る山」では枠づけされた特別な意味を持つ場所を示し、そして「人物の横にある山+人物を縁取る山」では両者の特徴とともに神の世界へと繋がる場所を示していると考えられる。
8. Functions of Mountains in Visual Composition of Christian Paintings in the Chora Church (査読付)	共	2011年03月	Intercultural Understanding Vol. 1, pp. 25~30	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画の画面構成における山の機能を明らかにすることを目的として、分析及び考察を行った。山は、1つの画面を、聖書の物語の異なる場面に区分し、さらに、1つの場面を異なる領域に区分する機能を持っていることが明らかとなっ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				た。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 出産を取り巻く環境の変遷について	共	2017年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集E-1, pp. 55～56	松居京香, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 少子高齢化が急速に進む現在の日本において、出産や育児に不安を抱えている妊産婦に寄り添うことが重要といえるが、産科医の負担増大や医療訴訟の増加などにより、産科医不足を招き、効率重視の出産となっている。このような出産を取り巻く今日の状況に対して建築的な提案を行う上で、あらためて日本における出産の歴史をたどり、出産を巡る歴史的習俗を振りかえることを通して、今後の出産環境を整備する上での多くの示唆が得られるであろうと考えている。
2. 尼崎の工場敷地内 庭園計画 その1	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 154～155	磯上奈穂美, 奥田まり, 平嶋奈弥, 岡崎甚幸, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 朝日エティック株式会社大阪工場敷地内庭園の設計、授業における指導 兵庫県尼崎市に工場を構える、朝日エティック株式会社の工場敷地内の一角に、従業員が安らげる庭園を計画する。対象敷地は沿岸部の埋立地で、海風がきつく、時より突風が吹くなど植物にとって気候条件の厳しい地域である。設計に先立って、クライアントが持っている天龍寺のモミジの苗木を植えたい、従業員と花見をしたいなどの要望があり、さらにこの敷地の一部に2台分の駐車場も含めることが設計条件であった。それらを踏まえて、本設計では日本の回遊式庭園となるようにデザインを行った。
3. 尼崎の工場敷地内 庭園計画 その2	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 156～157	奥田まり, 磯上奈穂美, 平嶋奈弥, 岡崎甚幸, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 朝日エティック株式会社大阪工場敷地内庭園の設計、授業における指導 本計画は朝日エティック株式会社の大阪工場敷地内に庭園を設計するものである。植栽計画ならびに照明計画の概要、庭園灯の設計について述べる。本計画では、庭園が四季折々の表情を見せるよう植物の選定、配置を行った(図1、図6)。また、オオシマザクラ・モミジ・アラカシといった中・高木をシンボルツリーとして配置し、その周りに歩行空間や人が集い、憩うための空間を計画した。季節毎に表情を変える植物の見どころを存分に際立たせつつ、庭園に適度な明るさを与えるような照明計画を行った。
4. 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その1		2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 410～411	吉野有里恵, 山口彩, ボズクルツベイザナル, 岡崎甚幸, 川口衛, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 杉浦徳利 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计提案、授業における指導 武庫川女子大学の玄関口である阪神電車鳴尾駅のプロジェクトにおいて、詳細図やCGパース、模型を作成し、コストや施工方法にも配慮したディテールを検討し、外観やホーム、コンコースなどのデザインを提案した。打合せでは、作成した図面や模型を用いて学生自らがプレゼンテーションを行っている。2015年3月に阪神電車鳴尾駅下りホーム、2017年3月に上りホームが完成した。本稿ではブランクシートを用いたことにより最低限の部材によって構成された駅舎空間の設計について報告する。
5. 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その2 ブランクシートの表面温度計測および構造実験	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 412～413	山口彩, 吉野有里恵, ボズクルツベイザナル, 岡崎甚幸, 川口衛, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 杉浦徳利 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计提案、授業における指導 ブランクシートをシェルの構造体として用いるために行った表面温度計測試験や構造実験の概要、現場での施工について報告する。下地材が不要なブランクシートによるプラットホーム上屋では、階段やエスカレーター、エレベーター、サインなどが乗降客に対して記号としてくっきりと浮かび上がって見える。今回の設計を通して、建築材料、特に仕上材や構造材としては一般的でないブランクシートの有効性を示し得た。阪神電車鳴尾駅におけるブランクシートを構造体として使用し、最低限の部材によって壁と天井が一体の空間を構成する手法は、駅舎など記号性が求められる建築の設計に有効であろう。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
6. オンオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 - ルカスの墓と絵画との関係に着目して-	単	2017年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp.879~880	猪股圭佑 全文執筆 オンオス・ルカス修道院聖堂におけるルカスの墓の配置について検討し、その空間構成の特徴をルカスの墓と絵画に着目して考察した。聖バルバラ聖堂とエウクティリオンの二つの聖堂が離れて建っていた10世紀後半には、ルカスの墓を中心として二聖堂の空間が構成されていたが、11世紀前半にかけてパナギア聖堂とカトリコンが建設され、建築的にはルカスの墓がある空間は二聖堂に従属する空間に変化したと考えられる。しかし二聖堂間の東西軸線に沿ってルカスの墓とそれに関する絵画が配置されることにより、ナルテクスから北西礼拝室を経てルカスの墓へ至る連続する空間が意味づけられ、その墓の持つ重要性を示しているのである。
7. 古瑜伽・妙見宮についての一考察 由加山門前町の発生から衰退の移り変わりについての研究	共	2017年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-1, pp.1189~1190	伊藤知夏, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 現在の敷地に移る前の古瑜伽の場所や今も残る妙見宮の意味について、周辺地域や参道の変遷、とくに熊野神社との関係に着目して考察を行い、そうした参道全体を含めた由加山とその門前町の空間構成に関する研究における意味を明らかにしている。
8. 現代の日本における「廃墟建築」の意義 磯崎新の見解を踏まえて	共	2017年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp.389~390	立野貴子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 人々を魅了する「廃墟建築」だが、その存在意義について論じた研究は少ない。本研究は日本を代表する建築家の一人である磯崎新の「廃墟論」(1988)における彼の見解を通して、現代日本における「廃墟建築」の意義について明らかにすることを目的とする。「廃墟建築」の意義を理解することにより、次世代の建築と「廃墟建築」との共存へ向けた知見が得られると考える。
9. 阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 その3 上りホーム床モザイクタイル画のデザイン	共	2017年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.414~416	ボズクルツベイザナル, 吉野有里恵, 山口彩, 岡崎甚幸, 川口衛, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 杉浦徳利 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计提案、授業における指導 武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオおよび同大学院 建築学専攻 修士課程1・2年生の9名は、阪神電車鳴尾(武庫川女子大前)駅 上りホーム床のモザイクタイル画10点を制作した(2016年度後期に実施)。モザイクタイル画のテーマ決定から、図案検討、現場で施工する一段階前のシート貼りまでの作業について報告する。
10. 京都西山の宗教的意味について	共	2017年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp.671~672	長谷川葵, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 数多くの古墳も残る西山の一角は、古代以前から人々の生活の拠点として栄え、また長岡京が造営され、多くの寺院も建立されてきた。その建設年代も古代から平安時代、さらにそれ以降まで様々であるが、これらの寺院について、日本の宗教の歴史を辿りながら概観し、それぞれの寺院が何故、西山の地域に建立されたのかを分析し、そこに暮らす人々にとつての西山という地域の宗教的意味について考察する。
11. 未来へ茶の湯をつなぐ立礼席	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp.424~425	三谷有加, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 小間が利休の求めた茶室の完成形とするなら、立礼席とは何をもって理想形とするか探るため、立礼席に必要な要素を茶座敷から抽出、分類することで、茶座敷から立礼席へ展開を行い、設計へと反映した。茶の湯の発祥の地である建仁寺から八坂通を挟んだ向かいの敷地を計画地とし、茶の湯の要素である「露地」「床の間」「躰口」などの解釈を建築化することで、新たな茶の湯の空間を提案した。
12. カッパドキア・ウフララ溪谷の岩窟聖堂における空間構成	共	2016年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp.719~720	木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究 本研究はウフララ溪谷の岩窟聖堂における空間構成を明らかにすることを目的とし、ウフララ・グループに属する複数の聖堂を含む8つの聖堂を対象に室や墓の配置、壁画の主題及び配置について分析・考察を行った。本研究で対象とした岩窟聖堂は、聖堂と墓室を中心とし、壁画の主題及び配置によって“死”、そして祈りを捧げる信者の魂の“救済”を意味する空間を構成していることが明らかになった。ここでは特に墓室が重要であり、それがあからこそ聖堂に“死”や“救済”を意味する壁画が多く描かれ、ウフララ溪谷独自の神聖な宗教的空間として意味づけられている。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
13. コーラ修道院のパレクシオンにおけるキリスト教絵画による空間構成 その2	共	2016年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 721~722	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院聖堂のパレクシオンにおけるアクソメトリック図を作成し、キリスト教絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。これによりドームにおける「聖母マリアによる執成し」とその成就としてのアプシスにおける「キリストによる救済」を希求する、献堂者テオドロス・メトキティスの願いを表現する建築的空間が絵画及び墓室の配置によって形成されたことを考察した。
14. 阪神電車鳴尾駅の自由通路の柱におけるモザイクタイル画の制作手法の提案	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 402~403	高田悠希, 今治こみ加, 尾崎綾, 谷なつき, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计提案、授業における指導 阪神電車鳴尾駅の自由通路の柱を題材に、まちの歴史的風景として「鳴尾の一本松」をモザイクタイル画で描く。本稿ではモザイクタイルでの表現方法や柱のディテールについて提案した。
15. 変容するまど	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 260~261	堀内環美, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 日本人の自然観について整理した上で、日本的な空間における「まど」の意味についてまとめた。これをふまえて、「まど」の多層性を建築計画(美術館)のレベルと都市計画(参道と広場)のレベルそれぞれに応用した自由な美的空間を提案した。敷地は四天王寺西参道である逢坂とその周辺とし、歩行者専用空間を創出するためアンダーパスを計画し、谷町筋などの車道は現状の地盤面より4.5m低く設定した。そこにつながる広場と美術館、立体交差する歩道を通過するとき、「まど」の重なりがつくる内と外が連続した自由な美的空間の中でゆるやかに風景が変化する。
16. 旧甲子園ホテルの酒場の椅子の復元	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 394~395	伊藤知夏, 今川泰江, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 授業における指導 甲子園ホテルは、フランク・ロイド・ライトの愛弟子である遠藤新の設計により1930(昭和5)年に竣工した。本プロジェクトでは、甲子園ホテル時代の写真を基にそこで使用されていた家具の復元を行い、当時の室内空間の再現を試みた。そのデザインの着想は、甲子園ホテルの建物のデザインを意識し、その特徴を反映させていると推察する。今後、甲子園ホテルの装飾について研究する上でも重要と考え、酒場で用いられていた椅子を復元した。
17. 旧甲子園ホテルの酒場のテーブルの復元	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 396~397	今川泰江, 伊藤知夏, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 授業における指導 旧甲子園ホテルの酒場の椅子に引き続き、テーブルについても復元を試みた。酒場のテーブルは、椅子とセットで設えられており、旧甲子園ホテルの内部空間を研究する上で重要と考える。
18. 阪神電車鳴尾駅の歴史的風景としての「鳴尾の一本松」の絵の提案	共	2016年08月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 400~401	今治こみ加, 高田悠希, 尾崎綾, 谷なつき, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子, 山口彩 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计提案、授業における指導 阪神鳴尾駅自由通路内中央の柱(高さ4700mm、一辺1100mm)に武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ一級建築士事務所と同大学院建築学専攻修士課程1年による一本松のモザイクタイル画を提案した。この柱は駅改札口前の中央、最も人通りの多い場所にある。街のシンボルとするのにふさわしい場所と考え、この柱に地域の歴史的風景である「鳴尾の一本松」の絵を施すことを検討している。
19. 水のみち	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 256~257	衣川桃, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 水は人間や動植物にとっては生命の源であり欠くことのできない存在である。日本人は水との親密な関係を築き続けてきた。建築における人と水との関わりを改めて意識し直すために、日本人がもっている水の文化、すなわち我々の祖先が水に対してどのように接し、どのように考えてきたのか、水の多義的な意味について調査した。神社や寺院などの建築において表現される水は、生命力・浄化力とともに境界性を表している。水は距離感や奥行きによって空間を分離するはたらきをもち、護岸や彼岸といった境界性を生み出している。そこで、神社の構造をもった『日常から非日常への導入』として水をめぐる建築を提案する。
20. カッパドキアの岩窟聖堂における	共	2015年09月	日本建築学会大会学術	木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
祭室及び窓の位置			講演梗概集F-2, pp. 337～338	ゼミにおける研究指導及び共同研究 カッパドキアの岩窟聖堂を対象に文献調査を行い、祭室が位置する方角や窓の有無に着目し、カッパドキアの地域ごとの岩窟聖堂の空間の特徴を明らかにすることを目的とした。今回の文献調査によって確認できたカッパドキアの岩窟聖堂では、祭室は一般的なビザンティン聖堂と同様に東側に位置することが分かった。本調査では窓を有する岩窟聖堂は多く見られなかったが、Ihlara Valleyの西岸に多数集まっていることが分かった。また、それらの窓は東側に位置する祭室に掘られる傾向が見られた。他地域の窓を有する岩窟聖堂の窓の位置と祭室の方位を確認するとTriconchを除く聖堂4カ所で同様の傾向が見られ、本調査では、Ihlara Valleyだけではなく、カッパドキア各地でこの傾向を確認することができた。このことから、東からの光に重要な意味があったと考えられる。
21. コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画による空間構成	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 335～336	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行い、14世紀の献堂者テオドロス・メトキティスの墓室の配置の意味を明らかにすることを目的とする。コーラ修道院のパレクレシオンにおいて、西側から入って左(北)側は「最後の審判」で天国が描かれた向きである。それに対して右(南)側は「最後の審判」で地獄が描かれた向きである。献堂者テオドロス・メトキティスの墓室は、ドームの中心から外れた位置になるにも関わらず、ナオスへ通じる通路があり、かつ最後の審判に描かれた天国により近い、北壁に配置されたと考えられる。
22. 児島・田の口の集落の構造についての研究—由加金毘羅両参りに着目して—	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-1, pp. 615～616	伊藤知夏, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は由加金毘羅両参りにより発展した児島・田の口の集落が空間的にどのような構造をもっていたかを明らかにすることを目的として調査を行った。由加山は元々信仰の中心であり、田の口港は金毘羅宮と由加山を繋ぐ軸線上の場所である。児島が島から半島へ変わることで、由加山、そして田の口から由加山に到る参道の重要度が増し、由加金毘羅両参りの流行とともに中継地の港である田の口の集落がその軸線に沿って形成されたのである。
23. 宮城県気仙沼市唐桑町大沢地区の防災集団移転において確認された地域コミュニティの意義について	共	2015年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集F-1, pp. 281～282	川瀬葉月, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 本研究は川瀬が2011年の東日本大震災直後から復興支援の活動を行ってきた気仙沼市唐桑町大沢地区を対象としている。震災から4年が経過し、各地で復興計画が実行に移されていく中、大沢地区では被災当初よりコミュニティ再生への住民の意識やまとまりが高く、気仙沼市において防災集団移転促進事業で最初の大合意を得た。それは明治三陸地震、昭和三陸地震の被害を受けながらも、営々と受け継がれてきた多様なコミュニティの存在が深く関わってきたであろうし、今回の防災集団移転に際しても、そうしたコミュニティの影響が見出し得た。本研究では、津波被災という非日常の状況下において、住民からのヒアリングを主たる方法として調査を実施し、大沢地区の複層的なコミュニティの特徴を明らかにする。
24. 阪神電車鳴尾駅におけるモザイクタイル画のデザイン	共	2015年09月	日本建築学会大会建築デザイン発表梗概集G-1, pp. 252～253	中村優花, 中野沙耶, 岡崎甚幸, 宇澤善一郎, 猪股圭佑, 森本順子 阪神鳴尾(武庫川女子大前)駅的设计提案、授業における指導 兵庫県の都市計画事業である「阪神本線西宮市内連続立体交差事業(鳴尾工区)」により、武庫川女子大学の最寄駅である鳴尾駅(下り駅舎)が高架化された。2015年3月に下りホームが完成し、そのプラットフォームに武庫川女子大学 建築・都市デザインスタジオ一級建築士事務所と同大学院建築学専攻修士課程1年の7名のデザインによる13のモザイクタイル画が設置された。モザイクタイル画の図案制作だけでなく、タイル一つ一つを図案通りに配列し、現場で施工する一段階前の300角シート貼りまでの作業を行った。
25. カッパドキア・ウフララ溪谷の岩窟聖堂における壁画による空間構成	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), p. 801～802	木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導及び共同研究、代理発表 カッパドキア・ウフララ溪谷の岩窟聖堂の中からユララル・キリセ、シュムビュルル・キリセ、コカル・キリセを対象として、祭室や墓室、開口の有無及び位置に着目し、壁画による空間構成を明らかにす

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
26. 神戸・阪神地域における精神科病院の立地に関する研究	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), p. 193~194	森愛子, 田崎祐生, 猪股圭佑 ゼミにおける研究指導 精神科病院開設当時の治療の場の建築的特徴を明らかにすることを目的として、神戸・阪神地域で主に戦前に開設された6病院を対象とし、開設時期の地図や文献資料をもとに調査した。これらの精神科病院は、市街地からは隔てられた街の外れに位置していたが、あくまでもその街の内側にあったことを考察した。
27. コーラ修道院の内ナルテクスにおけるキリスト教絵画による空間構成	共	2014年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿), p. 799~800	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院の内ナルテクスにおける壁画の主題及び配置による空間構成の分析を行い、それらによって形成されている建築空間の意味を明らかにすることを目的として、コーラ修道院の内ナルテクスの内部合成写真を作成し、壁面装飾による空間構成を分析した。コーラ修道院の内ナルテクスにおいて、南ドームにおける「神としてのキリスト」及び北ドームにおける「人としてのキリスト」の可視化により、「キリストの両性」を表現する建築空間が壁画の配置によって形成されていたと考えられる。
28. コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の意味—ドームとの関係に着目して—	共	2013年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), pp. 749~750	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 コーラ修道院における山の意味を明らかにすることを目的として、建築空間の断面構成とキリスト教絵画における山との関係の分析及び考察を行った。コーラ修道院の内ナルテクス及びバレクリシオンのドームにはアイコンが描かれ、その下のペンデンティブやルネットには神の世界と地上の世界の関わりを表現する図像、天使、聖母マリアの象徴である梯子及び契約の箱、そして山が描かれ、さらにその下には聖母マリアの執り成しをもってキリストによる救済を願う図像や献堂者達の墓室という断面構成になっている。コーラ修道院の建築空間においても、山は現実の世界と神の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていたと考えられる。
29. オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型—人物との関係に着目して—	共	2012年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 307~308	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画を分析対象とし、山の類型を抽出して、それら類型の意味を明らかにし、コーラ修道院のキリスト教絵画における山の類型と比較考察した。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」という2種類の山の類型が抽出された。オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画において、コーラ修道院の場合と同様に、山は特別な意味を持つ、現実の世界と神の世界を繋ぐ場所だったと考えられる。
30. MOUNTAINS PAINTED IN CHRISTIAN PAINTINGS IN THE MONASTERY OF HOSIOS LOUKAS	共	2012年07月	Archi-Cultural Interactions through the Silk Road, 2th International Conference 2012, proceedings, pp. 342~347	猪股圭佑, 岡崎甚幸 全文執筆 オシオス・ルカス修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型を抽出することを目的として、分析及び考察を行った。その結果「人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物が入り込む山」という3種類の山の類型が抽出された。
31. Mountains Painted in Christian Paintings in the Chora Church	共	2011年09月	iaSU2011	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 コーラ修道院のキリスト教絵画に描かれた山の類型を抽出することを目的として、分析及び考察を行った。その結果「人物の横にある山」「人物を縁取る山」「人物が入り込む山」「人物の横にある山+人物を縁取る山」「人物の横にある山+人物が入り込む山」という5種類の山の類型が抽出された。
32. キリスト教絵画を通して見た西欧における自然描写の変遷	共	2004年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道), p. 915~916	猪股圭佑, 岡崎甚幸, 柳沢和彦 全文執筆 西欧の自然描写の変遷を明らかにすることを目的として、キリスト教絵画における背景表現の分析を行った。分析を通して、13世紀末から15世紀前半を過渡期とする、黄金地を特徴とした背景表現から自然描写を特徴とした背景表現へ、という変化があることがわかった。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
33. 川別に見た山の構成の発達の特徴－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について その3－	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 1069～1070	猪股圭佑, 柳沢和彦, 原祥子, 岡崎甚幸
34. 学年別に見た山の構成の発達の特徴－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について その2－	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 1067～1068	原祥子, 柳沢和彦, 猪股圭佑, 岡崎甚幸
35. 箱庭療法と風景構成法と居住空間構成法の位置づけ－幼稚園児から大学生までの風景構成法における山の構成について その1－	共	2003年09月	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海), pp. 1065～1066	柳沢和彦, 猪股圭佑, 原祥子, 岡崎甚幸
36. 能動的移動実験と受動的移動実験の方法について－迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その1)－	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 683～684	猪股圭佑, 須貝成芳, 岡崎甚幸, 鈴木利友
37. 能動的移動と受動的移動における注視行動の比較－迷路内での能動的探索歩行と車椅子による受動的移動における注視行動の比較に関する研究(その2)－	共	2002年08月	日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸), pp. 685～686	須貝成芳, 岡崎甚幸, 鈴木利友, 猪股圭佑
3. 総説				
4. 芸術(建築模型等含む)・スポーツ分野の業績				
1. 阪神鳴尾駅	共	2017年3月18日 上りホーム完成	阪神電気鉄道株式会社、共同設計	外観及び内観デザインなどの設計提案を行っている。 所在地：西宮市里中町3丁目 用途：駅 構造：地上2階 鉄骨造 駅舎の空間が基本的に備えるべき特質である記号性を追求し、波型鋼板を用いて、単純、均質な空間を構成した。階段や改札口、エスカレータ、エレベーター、サインなどが他に邪魔されることなく、くっきりと浮かび上がって見える必要があるため、屋根を支える梁や小梁、照明や通信のための配管などが眼に入らないように、下地材や仕上げ材が一切不要な波型鋼板のディテールを検討した。壁と屋根面が一体となった曲面による空間の中に、上り、下りそれぞれのホーム階を包み込む。これにより、先端技術の象徴でもある、高速走行する電車に良く調和した、流動的でダイナミックな駅舎空間ができあがる。
2. 大阪府立職業技術専門学校北部校	共	2013年竣工	東畑建築事務所	実施設計を担当。 所在地：大阪府枚方市津田サイエンスヒルズ地区 用途：職業訓練校 構造：地上4階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 敷地面積：14041.65㎡ 延床面積：10400.05㎡ 「ものづくり」だけでなく「ひとづくり」を支援するため、「コミュニティストリート」「アメニティコート」等を提案した。訓練生同士や教官だけでなく、本地区に集う人たちの交流・対話の場を創出を目指した。
3. 税務大学校大阪研修所	共	2013年竣工	東畑建築事務所	基本設計及び実施設計を担当。 所在地：大阪府枚方市香里ヶ丘 用途：研修所(学校、寄宿舎、体育館) 構造：地上7階 鉄筋コンクリート造、鉄骨造 敷地面積：26767.35㎡ 延床面積：13111.57㎡ 税務職員の研修所として、「管理研修棟」「学寮厚生棟」「体育館」を設計した。機能の違うそれぞれの施設を分棟配置して、屋根付き渡り廊下でつなぎ、雨天時などの利便性に配慮した。造成工事を少なくするため、敷地の高低差は概ね既存のままとし、「管理研修棟」をエントランス広場のレベル、「学寮厚生棟」と「体育館」を「管理研修棟」2階レベルとして、「研修の場」と「生活の場」の大きなゾーニングを行った。既存緑地帯を保全し、各棟を低層から高層へとセットバックする構成として、周辺への圧迫感を軽減した。
4. 国際法務総合センター	共	2012年設計	東畑建築事務所	矯正医療センター診療棟(地上3階 約3700㎡)及び講堂棟(地上2階 約850㎡)の基本設計及び実施設計を担当。 所在地：東京都昭島市 用途：医療刑務所、研修所、少年鑑別所、宿舎 構造：地上9階 地下1階 鉄筋コンクリート造 敷地面積：125791㎡ 延床面積：約120000㎡ 「環境共生・未来矯正施設」として計画された。既

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 横浜市庁舎耐震補強	共	2009年竣工	東畑建築事務所	<p>存生物や周辺植生との共生を図り、建物高さを抑え、オオタカの営巣期間を避けた建設工期としている。矯正医療センター（医療刑務所）では、医療と矯正の融合を目指し、植栽の配置や開口部の確保等において、収容環境の改善を提案した。</p> <p>基本設計及び実施設計を担当。 所在地：横浜市中区港町 用途：庁舎 構造：地上8階 地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造 敷地面積：16472.97㎡ 延床面積：20756.45㎡ 村野藤吾氏設計の横浜市庁舎において、「地下1階柱脚免震工法」により、耐震補強を行った。市庁舎としての機能を継続しながら耐震補強を行う「居ながら工事」を可能とした。また、同時に法適合改修や設備改修等を行い、機能向上を図った。 平成22年度東畑建築事務所社長賞を受賞。</p>
6. 東京建物仙台ビル	共	2009年竣工	東畑建築事務所	<p>基本設計及び実施設計、現場常駐監理を担当。 所在地：仙台市青葉区中央 用途：事務所 構造：地上20階 地下3階 鉄骨造（一部CFT造、鉄骨鉄筋コンクリート造） 敷地面積：2359.43㎡ 延床面積：28496.69㎡ 高速バス施設の併設及びバスベイの整備、仙台駅前ペDESTリアンデッキの延伸・接続等の都市貢献により、都市再生特別地区を実現した。その結果、基準容積率600%に対し、容積率1100%を獲得している。仙台の玄関口に相応しいファサード・駅周辺からの顕示性・周辺建物との差別化・圧迫感の軽減等を具現化する為、隅角部と頂部が曲面のガラス建築とした。 積算資料2010年5月号、近代建築2010年5月号、あたらしい照明vol.149平成21年照明普及賞号、日本建築学会東北支部東北建築作品集2010に掲載。 照明学会照明普及賞（優秀施設賞）を受賞。</p>
7. 警視庁東京湾岸警察署	共	2008年竣工	東畑建築事務所	<p>基本設計及び実施設計を担当。 所在地：東京江東区青海 用途：警察署、寄宿舎 構造：地上9階 地下1階 鉄骨鉄筋コンクリート造 敷地面積：5000㎡ 延床面積：16914.11㎡ 平面計画における特徴的な部位（見張台、取調室、運動場、留置事務室、便所等）を明快に表現する立面とし、臨海副都心という地域性を考慮したデザインの警察署とした。1～6階警察署の一般動線、7・8階単身寮の職員動線、3・4階大規模留置施設や集中取調室の護送動線を分離し、設計条件を満たすゾーニングを行った。</p>
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 東日本大震災を経験して—東京建物仙台ビル	共	2012年03月	財団法人経済調査会経済調査研究所 経調レビュー 2012 vol.10 pp.018-023	<p>木村裕志、猪股圭佑 全文執筆 「東京建物仙台ビル」は、竣工後2年余で東日本大震災に見舞われたが、ほぼ無傷の状態迅速な復旧を果たした。本稿では、設計段階における防災対策と、震災発生から復旧までの経過をまとめた。大規模建築の設計において、非常時に建物が倒壊せず人命を保護することは、最低限の条件であるが、今後はさらに、災害発生時に受ける被害を可能な限り少なくして、建物機能を維持し、地域の防災拠点として機能するという役割が、期待されるだろう。それは、街を創造していく立場でもある建築設計者が、担うべき都市貢献の一つでもあると思われる。</p>
2. 東京建物仙台ビル	共	2010年09月	日本建築学会東北支部東北建築作品集2010 pp.54-55	<p>清野眞一、木村裕志、猪股圭佑 全文執筆 竣工写真や図面を引用しながら、建築計画の概要を記した。第21回東北建築作品発表会一般建築物部門にて発表。</p>
3. 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	近代建築社 近代建築2010年5月号 pp.95-100	<p>木村裕志、猪股圭佑、西原慎一、小島義包、古川和彦、大崎勝雄、菅野勉 建築計画他及び全文の取り纏めを担当 竣工写真や図面を引用しながら、建築計画、構造計画、設備計画、施工計画の概要を記した。</p>
4. 杜の都のランドマーク 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	財団法人経済調査会 積算資料2010年5月号 前文 pp.53-58	<p>木村裕志、猪股圭佑 全文執筆 竣工写真や図面を引用しながら、設計から監理に至る約3年半に渡る過程を振り返り、設計の過程やデザインの特徴、現場での試行錯誤等を記した。</p>
5. 東京建物仙台ビル	共	2010年05月	照明学会 あたらしい照明vol.149 平成21年照明普及賞号 p.11	<p>宮崎洋一、佐藤栄志、猪股圭佑、小島義包 建築計画他及び全文の取り纏めを担当 竣工写真を引用しながら、建築計画、照明計画の概</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
				要を記した。照明学会照明普及賞（優秀施設賞）を受賞。
6. 研究費の取得状況				
1. ギリシア、オンシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成	単	2017年	平成29年度 科学研究費補助金学内奨励金	オンシオス・ルカス修道院聖堂における空間構成の特徴を明らかにすることは、どのように神聖な宗教的空間が創造されたかを理解し、複雑な平面を持つビザンティン聖堂建築の空間構成における重要な特徴の一端を明らかにすることに繋がると考えられる。 [投稿雑誌論文] 猪股圭佑, 岡崎甚幸: 「コーラ修道院聖堂におけるパレクレシオンの空間構成－墓室と絵画との関係に着目して－」 (査読あり) 日本建築学会計画系論文集 第82巻 第738号, pp. 215-216, 2017. 8 [学会発表] 猪股圭佑: 「オンシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 - ルカスの墓と絵画との関係に着目して-」 日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 879~880, 2017. 8 奨励金支給額 80万円
2. ビザンティン聖堂における壁面装飾によって構成された建築空間に関する研究	単	2015年	平成27年度 科学研究費補助金学内奨励金	美術、建築、キリスト教関係資料の調査を行い、各聖堂のモザイク及びフレスコをレイアウトした展開図、合成写真を作成し、壁面装飾によって意味付けされた建築空間について明らかにした。展開図、合成写真は、建築史、美術史分野における研究発展に役立つだけでなく、貴重な文化遺産の保存に繋がると考えられる。 [投稿雑誌論文] 猪股圭佑, 岡崎甚幸: 「コーラ修道院聖堂のキリスト教絵画による内ナルテクスを中心とした空間構成」 日本建築学会計画系論文集 第80巻 第716号, pp. 2403-2411, 2015. 10 (査読あり) [学会発表] 猪股圭佑, 岡崎甚幸: 「コーラ修道院のパレクレシオンにおけるキリスト教絵画による空間構成」 日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 335~336, 2015. 9 木島未実子, 田崎祐生, 猪股圭佑: 「カッパドキアの岩窟聖堂における祭室及び窓の位置」 日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp. 337~338 奨励金支給額 42万円
3. ビザンティン聖堂のキリスト教絵画にみる自然観に関する研究	単	2013年	平成25年度 科学研究費補助金学内奨励金	コーラ修道院におけるキリスト教絵画を対象として、断面展開図や内部合成写真を作成し、絵画の主題及び配置による空間構成の分析を行った。コーラ修道院のドームにおいて、山は神の世界と地上の世界を繋ぐ場所としての意味をもっていた。絵画を描くことによって低い壁面を地上の世界、ドームを神の世界として構成し、ペンデンティブやルネットが二つの世界を区分している。これにより、キリスト教絵画による3次元のビザンティンの宗教的空間が構成されていることを考察した。 奨励金支給額 90万円
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			
1. 2002年～現在	日本建築学会			